東京言語研究所
集中講義のご案内

東京言語研究所では、言語学の研究者の方々ならびに言語学に興味をお持ちの方々を対象に〔理論言語学講座〕をはじめとして様々な講座を開設しております。＜集中講義＞は、多様な研究領域に関して、ひとりでも多くの方々に知っていただくため、年間 2 回の集中講義を実施しています。ぜひご参加ください。

＜演題＞ 『ミニマリスト・プログラムと日英語比較統語論』

＜講師＞ 外池　滋生 氏（青山学院大学文学部教授）

＜日時＞ 2014年 3月 22日（土） 13:00～18:20（90分講義×3コマ）
23日（日） 10:30～16:20（90分講義×3コマ）

＜会場＞ 東京言語研究所（新宿区西新宿 6-24-1　西新宿三井ビル13階）

＜参加費＞ 一般 12,000 円

学生・大学院生・2013 年度理論言語学講座受講生　9,000 円

＜申込み＞ ホームページ申込みフォームまたは FAX にて下記をご連絡下さい。（定数:50名）

※　申込み受付は 2 月 4 日(火)～3 月 20 日(木)まで

①集中講義受講希望 ②氏名 ③フリガナ ④性別 ⑤住所 ⑥電話番号
⑦E メールアドレス ⑧区分（2013 年度理論言語学講座受講生・一般・学生）
⑨所属区分（大学生・大学院生・教員・会社員・その他）

（上記情報は東京言語研究所事業以外には一切使用いたしません）

講師紹介：1976 年東京都立大学人文学部人文科学研究科博士課程英語英文学専攻修了。1979 年ハワイ大学大学院言語学科修了(Ph.D)。専門分野及び関連分野は 言語学，英語学，国語学。明治学院大学文学部教授、Fullbright 上級研究員として MIT 客員研究員へて現在は青山学院大学文学部教授。主な著書に『言語学の領域〈1〉 シリーズ朝倉「言語の可能性」』(中島平三編集),「第 6 章 ミニマリスト・プログラム」(2009 朝倉書店)論文に“Japanese and the Symmetry of Syntax” *English Linguistics* 24:2, pp. 654-683. Tokyo: English Linguistic Society of Japan(2007)など。

○ 問合せ先
公益財団法人ラボ国際交流センター　東京言語研究所
〒160-0023 東京都新宿区西新宿6－24－1　西新宿三井ビル16階
TEL:03－5324－3420　FAX:03－5324－3427
E-mail:info@tokyo-gengo.gr.jp　ホームページ:http://www.tokyo-gengo.gr.jp/

講義概要

生成文法理論ではすべての言語の文法は人間に遺伝的に備わった共通の言語機能の発現であると考えます。そのような観点から異なる言語の文法を比較研究すると、個々の言語を見ているだけでは予想されない形で、様々な共通点が見えてくることがあります。

本講義ではそのような観点から日本語と英語の文法を比較しますが、特に、下の表に見られるKuroda(1965,1973)が着目した対応関係を取り上げます。

存在演算子	全称演算子	疑問演算子	譲歩演算子
somewhere	every/anywhere	where	wherever
何処か	何処も	何処...か	何処...も

この対応関係は日本語では「何処」を「何時」「何」「誰」に置き換えても成り立つのに対して、英語では、time:when, thing:what, one/body:who のような交替を示しますが、全体としての対応関係は明らかです。さらに、この表から、some=か、every/any=も　という対応関係も読み取れ、その「か」と「も」は日本語では疑問表現と譲歩表現にも使われ、さらに、英語の or と and に対応していることがわかります。

さらに、これらの表現は演算子(operator)として働き、変項(variable)を束縛するとされる点でも共通しています。そして、演算子には「作用域」と呼ばれるその働きが及ぶ範囲があり、それはその構造的位置により決定されていると考えられます。その意味で、これらの要素について日英語を比較することにより、英語、日本語の名詞句や節の構造の共通点、相違点が明らかになることが期待されます。

演算子-変項構造の成立には移動が関与するというのが標準的な扱いですが、移動を必要としないより簡潔な扱いが有効であることを、英語の例について示します。その上で、同様の扱いを日本語に適用して、そこからどのような結論が導かれるかを追求します。

時間割　※　変更の可能性があります

1　生成文法理論の大枠と英語統語構造
2　英語数量詞作用域と WH 疑問文/譲歩文
3　演算子-変項構造の統一的扱い
4　日本語の節構造の可能性
5　日本語の数量詞作用域と節構造
6　日本語の WH 疑問文／譲歩文と節構造

22 日（土）

13：00　開講式
13：10　講義―1
14：40　講義―1 終了　休憩
15：00　講義―2
16：30　講義―2 終了　休憩
16：50　講義―3
18：20　講義―3 終了

23 日（日）

10：30　講義―4
12：00　講義―4 終了　休憩　昼食
13：00　講義―5
14：30　講義―5 終了　休憩
14：50　講義―6
16：20　講義―6 終了